

古民家スタイル

- 古民家を部分移築した家 -

伝統の美と技術による確かなデザインは、人の心に合わせてゆっくりと生まれ、安らぎを醸し出してくれます。現代の住まいは新しさや効率性ばかりを求め国籍不明となり、ファッションのように目まぐるしく変化して、人の心が追いつくのが大変です。

この事からも、古民家は先人達の贈物であり、そこから学んだ古民家スタイルは次の世代に繋げたい日本の住まいと考えます。

(有)金沢設計 - 赤坂 攻
Kanazawa Architectural Design Office



正面外観

省エネルギー性への配慮

(建物構造や設備(給湯、空調等)の面で、設計・施工上配慮したことや維持管理の上で計画したこと。)

- ・断熱性能は最高ランクの、省エネルギー対策等級4(次世代省エネ基準)を確保した。
- ・総合省エネルギー基準において、一次エネルギー消費量の基準達成率111%を達成した。
- ・上記二点により第三者(日本E R I)評価における住宅省エネラベルを取得し、フラット35 S(20年金利引下げタイプ)の融資を可能にした。
- ・熱交換型の第一種換気扇を用いることで、空調負荷を低減した。
- ・熱交換された新鮮空気が、空調設備の設置された部屋(居間・食堂など)から廊下・WC・洗面所等へ流れるようにし、空調された空気を有効に活用し温熱バリアを小さくした。
- ・維持管理の難しい高所の照明器具のほか、全体の約3分の1をLED照明にし、残りは蛍光灯(電球型)を用いた。
- ・給水、給湯はヘッダー方式を採用、水廻りには床下点検口を設置しメンテナンスを容易にした。
- ・天井の高い居間には暖気を下ろすためにシーリングファンを用いた。

3R(リデュース、リユース、リサイクル)への配慮

(建築時に発生する廃棄物の抑制、建物の長寿命化のための工夫などについて配慮したこと。)

- ・1階部分の主要な柱や梁組み、2階の主要な梁組み(丑梁、登梁等)は、解体を余儀なくされた2軒の古民家から移築・活用した。
- ・木製建具の半数は、解体を余儀なくされた古民家の古建具を補修して再利用し、古ガラスも可能な限り再利用した。
- ・畳は全て、元あった建物の古い藁床(本畳床)の畳を、表替をして再利用した。(藁床の畳は建材畳と比べクッション性に優れ、足触りが柔らかく心地良い。)
- ・大屋根の棟、下屋の隅棟に付く鬼瓦は、全て古瓦(今では貴重な手彫りの鬼瓦)を焼き直して再利用した。
- ・外壁は真壁風の大壁とすることで、意匠性を保ちつつ構造躯体の保護を図った。
- ・外壁通気・屋根通気工法を採用し、断熱性能の向上を図った。



山田家



金田家



食堂・台所 梁組



居間



漆塗り仕上げの浴室